

第13回 旭川市民文化会館整備基本計画検討会 会議録（要旨）

会議名 第13回 旭川市民文化会館整備基本計画検討会

開催日 令和8年9月24日（木）
午後2時から午後3時30分まで

開催場所 旭川市神楽公民館 第1学習室（神楽市民交流センター2階）

出席者 参加者 全12名のうち8名出席
（敬称略） 大口 優、鈴川 雄太、西川 祐司、水野 雅文、
南 裕一、宮田 健一、森 傑、森 禎宏
事務局 4名出席
社会教育部 文化ホール整備担当部長、主幹、主査
国立大学法人北海道大学

会議の公開非公開の別 公開

傍聴者数 3名

会議資料 別紙のとおり

1 開会

2 議事

（仮称）新文化ホール整備基本計画（案）骨子について

進行役：

- ・ 本日は「基本計画案の骨子」を議題とする。現段階では「骨子」であり、最終的には冊子として基本計画をまとめる上で、重要となるフレームとして、どのような内容を基本計画に記載していくのか、資料1に整理している。
- ・ 資料1の目次に従って議論を進めていくが、1～4の見出しのうち、1～3は基本構想を含むこれまでの議論の要点、4がその内容を踏まえた施設機能といった形になる。これまでの議論からずれることなく整理されているか確認いただきながら議論したい。
- ・ まずは資料について、事務局より説明願いたい。

事務局：

- 資料1 「（仮称）新文化ホール整備基本計画（案）骨子」（1 基本計画策定の背景、
2 （仮称）新文化ホールが果たすべき役割、3 建設予定地）に基づき説明

進行役：

- ・ 1～3は、これまで数年間にわたって議論してきた内容を整理したものとなっている。お気づきの点や確認したい点があれば御意見をいただきたい。

参加者：

- ・ 7ページで触れられている旭川市公共施設等総合管理計画はいつ策定されたものか。また、その中で公会堂の将来像については定められているのだろうか。
- ・ 公会堂の機能を新文化ホールへ継承・集約することが確定するのかどうかという点は、今後考え方が変わってしまうと新文化ホールの設計にも大きな影響が生じると思われ、非常に重要と捉えている。公会堂の集約化については、本検討会として「集約すべき」と意見した、という建て付けになるのか。

事務局：

- ・ 現行の公共施設等総合管理計画は令和4年（2022年）3月に策定されたものであり、6年毎に見直しを行うことになっている。
- ・ 現行の「旭川市公共施設等総合管理計画 第1期アクションプログラム 施設再編計画」において、公会堂は「市民文化会館との機能集約を検討」する旨が記載されており、本検討会においても、当該記載について御説明し、その内容を踏まえ議論いただいた。
- ・ その中で、公会堂は老朽化が進み、将来的に機能を担保できなくなることが見込まれることから、機能を将来にわたって担保していくために、（仮称）新文化ホールがその機能を継承すべきとして議論いただいた経過がある。
- ・ 公会堂の集約化については、こうした議論を踏まえ、市として決定するものであり、令和7年9月26日に開催した第7回基本計画検討会において、「原則として、将来的に廃止していく方向性になるものと認識している」こと、また「廃止の時期を現時点で明示することはできないが、仮に廃止された場合にも、公会堂の機能を新文化ホールにて担えるような施設とすることで、将来的な統合に備える必要がある」という考え方をお示ししており、今回の記載はこの考え方に基づくものである。
- ・ なお、本計画はあくまで（仮称）新文化ホールの整備に係る計画であるため、「公会堂の機能を集約・継承する」といった記載は行う想定であるが、公会堂の廃止決定やその時期まで定め、記載することまでは想定していない。

進行役：

- ・ 公会堂の存廃については基本計画の中で言及する事項ではなく、将来的に公会堂が使用できなくなったときに備え、その機能を（仮称）新文化ホールで受け止められる計画・設計としておく必要があるものと理解している。
- ・ 現在の市民文化会館の都合だけを前提として新文化ホールを考えるのではなく、公会堂の機能を将来的に担う可能性を視野に入れて計画・設計する、という考え方を記載しているものとする。

参加者：

- ・ 現在の公会堂は演劇で利用される場面が多いとのことだが、同程度の規模感を継承する必要があるという理解になるだろうか。

参加者：

- ・ 演劇のことだけを考えると、公会堂は、ホールが箱型で見切れが発生しづらいため、使いやすい一方で、規模に関しては若干大きすぎるように感じる。
- ・ 一般に、公会堂くらいの規模であれば肉声での演技となるが、最後方の席までは声が届かず、概ね 300～400 席程度の販売に留まるものと考えられることから、500 席程度のサブホールは、規模に関してはちょうど良いと思う。

進行役：

- ・ これまでも述べてきているところではあるが、建物としての寿命の問題のほかに、いわゆる「機能面の耐用年数」も課題であると思う。演劇以外にも様々な活動を実施する上で、設計仕様上、機能的に難しいという場面も出てきているものと思う。
- ・ 見切れの少なさ等の長所については、新文化ホールで適切に配慮した設計を行うことで、その役割を継承することが可能であるものとする。

参加者：

- ・ 公会堂の機能を継承するか否かは、（仮称）新文化ホールの施設機能にも直接的に関わってくる部分である。
- ・ 端的に言えば「いずれ公会堂が使えなくなることを前提に、仮に使えなくなっても、最大限、利用希望に応えられるような施設機能として整備する」ということになるのだと思う。

進行役：

- ・ 御指摘のとおりであると思う。第 11 回及び第 12 回検討会の配付資料に示された稼働状況等のデータからも、現・市民文化会館と公会堂の利用を踏まえ、適切に計画すれば、新文化ホールとして両施設の機能を担うことが出来る旨の根拠は示されていたと思う。
- ・ ほかに意見がなければ、続いて「4 施設機能」に入りたい。
- ・ 本項については、技術的な面から検討に協力した国立大学法人北海道大学より説明することとしたい。

国立大学法人 北海道大学：

資料 1 「（仮称）新文化ホール整備基本計画（案）骨子」（4 施設機能）及び資料 2 「これまでの検討会における議論の整理」に基づき説明

進行役：

- ・ 資料 2 では、施設機能に関するこれまでの議論を整理しており、列ごとに見ていくと、左側から右側へ行くほど、より直近の議論を記載した構成となっている。
- ・ 「これまでの議論から想定される諸室」の列までは前回までの資料から変更ないが、以降の列では、第 11 回及び第 12 回の検討会において寄せられた意見を記載している。
- ・ この資料 2 に示した議論内容を基に、資料 1 の「4 施設機能」12～16 ページに示す内容を記載し、17～18 ページにおいては建設設計の分野で「機能図」と呼ばれる図を作成した。機能図は、これを立体的に構成していくことで、建物の構成につながっていくものである。

- ・ また、これまでの議論の中で、検討会として明確に是非の決定がされていない事項については、今後決定すべき課題として、米印で記載している。
- ・ 以上を踏まえ、参加者の皆様より、御意見・御感想など、自由にお話いただきたい。

参加者：

- ・ メインホールに関しては、座席が階層式になることに関しては、確定と捉えても良いのだろうか。また、オーケストラピットについては、やはりあった方が良いかと思う。
- ・ また、ホールの形式について、メインホール・サブホールは通常のホール形式として、リハーサルホールを平土間とするのは非常に良いと思う。この場合、平土間空間で本番を開催する際に使用する椅子は、自動で収納・展開が可能なロールバックチェアであることが望ましい。
- ・ また、リハーサルホールが現・市民文化会館の小ホール機能を引き継ぐという意味では、ピアノの発表会などの会場となる場面も多くなるのではないかと考えられ、ピアノ庫からの動線設定が必須となるように思う。

進行役：

- ・ メインホールの階層については、約 1,500 席を 1 層で収めようとした場合、設計上、最後部の座席が視認性の限界を超えてしまうと見込まれることから、おそらく 2 層以上にはなるものと思う。
- ・ また、現在想定される建設予定地に約 1,500 席のホールを建てようとした場合、客席が 2 層だけでは奥行きが必要となるため、3 層となる可能性があることも、設計段階においては想定しておくべきかと考える。

参加者：

- ・ 現・市民文化会館や大雪クリスタルホールは、施設に入ると、ホールへの動線は一見して理解できるのだが、会議室等がどこにあるのか、どのように行けば良いのか理解しづらく、構造的に言葉で案内することも難しい。
- ・ (仮称) 新文化ホールにおいて、リハーサルホールを本番の場としても活用できることとし、観客も入るよう整備する際には、ぜひ、一般来館者にもわかりやすい配置・動線や案内表示となるよう、留意してほしい。

参加者：

- ・ リハーサルホールに関しては、主催者・出演者側の動線にも留意したい。他施設では、リハーサル室とホールの階層が異なり、距離もあるため、楽器を持って移動する際に苦労した経験がある。全てを同時に叶えることが難しいことは理解しているが、可能な限り安全に、そして効率的に移動できる配置・動線であることが望ましい。

進行役：

- ・ 大事な指摘であると思う。機能図のほかに「動線計画」という項目を設け、別途記載しても良いのではないだろうか。
- ・ また、諸室機能の中で、エントランスロビーに関しても、諸室の配置・場所が分かりやすいものとなるよう配慮する旨についても、追記して良いのではないかと考える。

参加者：

- ・ 12 ページに示された想定面積は、予算等の制限から設定されたものなのか、必要な面積を積み上げたものなのか。また、今後この面積が削減される可能性はあるのか。

事務局：

- ・ 12 ページの本文に記載のとおり、先行事例や現・旭川市民文化会館の諸室面積から、室ごとに想定される面積を算出し、それを積み上げたものであり、その結果として、現・市民文化会館と公会堂の面積の合計を下回ることについて確認したところである。
- ・ あくまで想定を積み上げた値であり、「記載した面積を確保する」ことを目的とした数値ではないことから、実際の施設面積が記載の想定面積よりも少なくなる可能性は十分に考えられる。

参加者：

- ・ 会議室はどのように想定されたのか。

事務局：

- ・ こちらも現・市民文化会館の会議室の収容人数をベースとしており、分割時は現施設における第3会議室や第5会議室と同程度となる30人規模、つなげて使用した場合は大会議室と同程度となる200人規模として、現状と同程度の規模を確保できるよう想定している。

参加者：

- ・ 資料1本文中でも触れられているが、現状において、合唱の全道大会レベルのコンクールは、市民文化会館の大ホールを会場として使用しており、旭川での開催は概ね3年に2回程度のペースである。
- ・ この際、本番会場1箇所とリハーサル会場2箇所が必要となることから、現在は本番会場を大ホール、リハーサル会場を小ホールと大会議室としているが、構造上、出演者動線の一部が一般来館者動線と重複してしまうなど、運用上の難しさを感じていた。
- ・ 骨子において想定される（仮称）新文化ホールの施設機能を見ると、本番会場がメインホール、リハーサル会場がサブホールとリハーサルホールになると見込まれ、それぞれ規模の上では現状と遜色ないと思われるが、ピアノ庫との関係なども含め、動線の設定には可能な限り配慮いただきたいと思う。
- ・ また、施設面積については、当然広くなればなるほど整備費を要すると思われるが、必要な面積を確保できるよう、頑張っていたいただければと思う。

参加者：

- ・ 学会や研究会など、コンベンションを行う上で会議室はある程度の規模の部屋が複数あることが望ましく、分割した際に人の声が邪魔にならないよう配慮してほしい。

事務局：

- ・ 仕様に関する話であり、設計段階で検討する事項になってくる部分もあるとは思いますが、現代的な可動間仕切りに関しては、話し声程度であれば防音可能な設えもあるとのこと、一定の対応は可能と考える。

- ・ また、間仕切りの設定次第だが、前回の検討会において「3分割可能な会議室の場合、両端を使用させ中央は空けるといった対応も可能では」という指摘もあったが、こうした運用面での対応も検討し得る部分と考える。

進行役：

- ・ 先行事例では、可動間仕切りの数を増やし、より細かく分割できる仕様とすることにより、中央に通路を設けるなどして防音機能を高めている諸室の例もある。こちらはまさに仕様の話であるが、様々な形で対応は可能であると考ええる。
- ・ また、運用面の話に関して言えば、これまでの議論の中でも話題としてあったとおり、周辺ホテルの諸室を活用することも想定されているものと思う。全ての諸室を公共施設だけで賄うことは、一般利用の需要と乖離していくおそれもあり、現実的な諸室数と面積を想定してのものかと思われる。

参加者：

- ・ 過去の議論にもあったが、会議室のそばに談話できるようなスペースがあると良い。

進行役：

- ・ 居心地良く滞在できる場、交流できる場といった機能に関して、現状の記載ではエントランスホールに焦点が当たっているが、共用空間を全般的にどのように設定していくか、という視点は、昨今のホール建築において非常に大事なポイントであり、是非押さえておきたい。

参加者：

- ・ 小ホールとリハーサル室を統合した場合、それぞれの利用希望は溢れずに実施できるものだろうか。

事務局：

- ・ 現状の利用状況をベースにしたシミュレーションにおいては、他の諸室と合わせて一定の範囲内で対応できるものと想定している。

進行役：

- ・ 利用者の立場からはどう考えられるか。

参加者：

- ・ 考え方として、現・市民文化会館の大ホールで行われている催しはメインホールで行い、公会堂で行われている催しはサブホールで行い、小ホールで行われている催事はリハーサルホールで行う形となり、現在リハーサル室で行われている活動は、リハーサルホールと活動室で分担する形になるのではないかと思う。
- ・ こうした形であれば、十分にクリアできるものと考ええる。こうした利用を想定すると、リハーサルホールにも「交流」の要素が見込まれるのではないだろうか。

参加者：

- ・ 苫小牧市民文化ホールでは 400 席のマルチホールがロールバックチェアを備えていたため、（仮称）新文化ホールにおいても、規模の近いサブホールが平土間で同等の機能を備えるイメージを持っていたが、多用途に使用する上では、大きすぎるといったことも想定されるのだろうか。

参加者：

- ・ 多用途利用を想定すると、500 席というのは多すぎるのではないだろうか。三軒茶屋駅の近くには「シアタートラム」という演劇を主目的とした小劇場があり、こちらは平土間でロールバックチェアの客席数は 250 席程度である。
- ・ サブホールは公会堂の機能を継承すると考えた場合、一般的なホール形式が適切かと考える。

進行役：

- ・ 苫小牧市民文化ホールにおいて、リハーサルホールに相当するアールスペースでの演劇等の開催状況はどうか。

有識者：

- ・ 開館からさほど時間が経っていないこともあり、現状において利用があったという話は聞けていない。
- ・ なお、設計等に際して、演劇を行う場合はサブホールに相当するマルチホールを利用いただくよう想定されていた。150 席程度のアールスペースで演劇を行う場合、照明や幕等の設備が常設のものだけでは不足するため、一部仮設により対応する形となる。

進行役：

- ・ こちらについては、今後、詳細な運営面の検討と合わせて精査する必要があるかもしれない。

参加者：

- ・ コンベンションでは、メインホールを主会場として使い、会議室等で分科会を開催するなど、他の一般的な催事等とは施設の使い方が若干異なることから、具体的な使い勝手に関する部分は、今後も継続的にフィードバックさせていただきたい。
- ・ また、昨今はオンラインを併用した開催となる場合も多く、通信環境等に関しても、施設として可能な範囲で配慮いただけるとありがたいと思う。
- ・ 会議室付近の談話スペースに関しては非常に大事だと考えており、あわせて、そうした場において旭川の魅力を発信する要素などもあれば、旭川に関心を持ってもらうきっかけとなり、良い循環を生むことができるのではないかと思う。

進行役：

- ・ 御指摘のとおり、コンベンションでは諸室移動の仕方などが変わってくるとわれ、これも動線に係る要素の一つと思われる。
- ・ また、エントランスロビー以外の共用部の充実についても、もう少し記載があっても良いと思われる。
- ・ 情報通信環境に関する項目も、基本計画として記載があっても良いかもしれない。

事務局：

- ・ 本日欠席されている参加者からも、情報通信機器に関する意見を事前にお預かりしていることから、御紹介する。
- ・ ホールの席数に関して、「第 11 回検討会資料では、2,000 席程度の席数を求めるコンベンション関係者からの意見について記載があったが、メインホール舞台上の映像をサブホールで上映できるような仕組みがあれば、メイン・サブ合わせて 2,000 席程度を確保できることになり、こうした需要をソフト面から解決できるのではないか」との御意見であった。
- ・ 「こちらは仕様に関する部分であり、基本計画の本文に記載すべきではないかもしれないが、今後の配慮事項としてほしい」との旨、あわせて御意見として伺っている。

参加者：

- ・ ギャラリー（展示室）については、想定面積を 600 m²とされているが、面積があればそれで良いということではなく、利用頻度を高めていくためには、機能面でも様々な配慮が必要になると考えている。
- ・ 例えば、現在の展示室のように直接外部から展示品を運び込むことができれば、大型の展示品であっても搬出入が容易になるが、そのためには、展示室を 1 階に配置する必要が生じる。
- ・ 他にも細かな配慮いただきたい事項はあるが、それらは今後さらに具体化する中で、意見を申し述べる機会があれば参加させていただきたいと考えている。

進行役：

- ・ 質問したいのだが、ギャラリーに直接搬入可能な搬入口を設けることが必須であり、ホール等と同方向の搬入口から搬出入する形では問題があるのだろうか。
- ・ 仮に必須とした場合、展示に用いる壁面が減ることになるなど、ギャラリーとしての機能面にも影響するおそれがあると思うが、いかがだろうか。

参加者：

- ・ 重要なのは、搬出入経路の長さであると考えている。ギャラリーの展示品は大きなものも想定されることから、可能な限り搬入動線は短くなることが望ましい。
- ・ 諸室の配置とも関わることから、現段階で確定を求める要素としてではなく、今後の設計段階等における課題の一つとして捉えていただきたいと思う。

進行役：

- ・ 御意図について承知した。
- ・ ここまで御意見をいただけてきた中で、施設機能に関して大事と思われるポイントは確認できたのではないかとと思う。
- ・ その他、先程は面積と整備費に関する意見もあったが、基本計画において、いわゆる整備費や今後のスケジュールといった事項についても一定程度記載することが一般的であると思うが、事務局としてどのように考えているか。

事務局：

- ・ 御指摘のとおり、骨子として公開する段階においても、記載が必要となる事項であるものと認識している。

- ・ 本日皆様に議論いただいた内容を踏まえた施設規模を基に、想定される費用とスケジュールについても追記することとしたい。
- ・ これらは検討会として議題いただく内容ではないかと思われるが、検討会参加者の皆様には、別途御確認いただく場を設けたいと考えている。

進行役：

- ・ 承知した。施設機能に関する議論と合わせて、記載の改定につなげていただきたい。
- ・ 本日の議題は全て確認いただけたと思うが、全体を通して質疑・意見等があれば御発言いただきたい。

参加者：

発言なし。

進行役：

- ・ それでは、以上をもって本日の議論を終了する。

4 閉会

事務局：

- ・ 基本計画（案）骨子については、本日の議論を踏まえ、記載内容の細かな修正や追記等を行いつつ、想定される施設の機能・規模に基づき、整備費用・スケジュールの想定について追加の上、取りまとめることとしたい。
- ・ こちらは別途、検討会参加者各位に御確認いただいた上で、10月の下旬～11月上旬頃に、市民の皆様に向けた市民説明・意見交換会を開催したいと考えている。
- ・ その場でお寄せいただいた御意見なども踏まえ骨子案に肉付けを行い、基本計画（案）として取りまとめた上で、次回検討会において皆様に議論いただくよう想定している。